

東日本大震災に関する農業農村工学会の取組み

本会は、東日本大震災に対し、発生直後から災害対応特別委員会により調査団の派遣、提言、情報の提供などを行ってきました。また、研究委員会の下で震災復興のための農村計画研究や放射性物質で汚染された農地の復旧技術研究を進めています。今後とも会員諸氏が専門的な科学技術の知見を活かし被災地の復興に積極的に貢献されることを期待しております。東日本大震災に関する活動をされた会員は、学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) あてに情報提供をお願いします。寄せられた提言や情報を災害対応特別委員会の活動に反映するとともに、学会ホームページや学会誌などで公表し、会員間の情報共有と一層の社会貢献に努めます。

会 告

○平成 24 年度農業農村工学会大会講演会の開催について (第 1 報) ㊦	平成 24 年 9 月 18~21 日開催	74
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い		74
○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い		74
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!		75
○平成 25 年の表紙写真の募集 秋季~冬季締切 平成 24 年 3 月 31 日		76
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!		76
○国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について		77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ		78
○北海道支部講習会の開催について (第 2 報) ㊦	申込締切 平成 24 年 1 月 6 日	78
○平成 23 年度京都支部講習会・研修会の開催について (第 2 報) ㊦	申込締切 平成 24 年 2 月 10 日	79
○第 50 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 報) ㊦	申込締切 12 月 26 日	79
○平成 23 年度技術者継続教育機構東北地方委員会研修会開催について ㊦	申込締切 平成 24 年 1 月 13 日	80
農業農村工学会論文集第 276 号内容紹介		81
学会記事		84

第 80 巻第 1 号予定

展望: 学会におけるアウトリーチ活動: 溝口 勝

小特集: 農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動

- ①調査、計画段階における事業化に向けた戦略的広報方策: 中里良一
- ②非農家や子ども達が参加する生きもの調査の取組と成果: 水谷正一ほか
- ③地域環境課題の解決に寄与するアウトリーチ活動の可能性: 田代優秋ほか
- ④北海道十勝地域の農業農村工学とアウトリーチ活動: 宗岡寿美ほか
- ⑤Wiki による農業農村情報用語集システム: 関 勝寿ほか

技術レポート

北海道支部: 融雪水を貯留利用する北海道の農業水利ダムの近年の運用動向: 新津雅士

東北支部: 舌崎地区における畑地灌漑施設の有効利用と維持管理: 嵯峨淳一

関東支部: 鳩の木川調整池における 3D-CAD を利用した土量管理: 上沼辰則

京都支部: 小倉ダムの建設における総合的なコスト改善への取組み: 松浦正一ほか

中国四国支部: 累積降雨量に基づく地すべり防止施設の効果の評価: 大森有晃ほか

九州支部: 畑地灌漑調整池の水質浄化: 井上裕之

小講座: オーラルヒストリー: 杉浦未希子

私のビジョン: 短い年月を振り返って: 西脇淳子

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催地	掲載号
平成23年12月 17,18日	応用水理研究部会	平成23年度講演会	ⓑ 農業農村工学分野における 応用水理学に関する研究	川崎市	79巻10号
平成24年1月 18日	北海道支部	講習会	ⓑ 寒冷地における農業用水施 設の長寿命化に向けて	札幌市	79巻11,12号
平成24年1月 20日	材料施工研究部会	第50回シンポジウム	ⓑ 大規模災害に対する農業基盤施 設の安全性と今後の設計技術	新潟市	79巻10,12号
平成24年1月 25日	技術者継続教育機 構東北地方委員会	平成23年度研修会	ⓑ 東北管内に於ける農業用施 設等の被災と復旧状況につ いて、ほか	仙台市	79巻12号
平成24年2月 16日	京都支部	平成23年度講習会・研修会	ⓑ 農業水利施設の長寿命化に ついて(仮)ほか	京都市	79巻11,12号
平成24年9月 18~21日	大会運営委員会	平成24年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ —	札幌市	79巻12号

平成24年度農業農村工学会大会講演会の開催について(第1報)

大会運営委員会

技術者継続教育プログラム認定申請中



平成24年度農業農村工学会大会講演会は、北海道大学において開催を予定しています。大会への投稿要項、参加申込み方法など、詳細は続報でお知らせいたします。

1. 開催期日 平成24年9月18日(火)~9月21日(金)
(9月21日(金)は現地研修会予定)

2. 会場 開会式および講演会：北海道大学札幌キャンパス
交流会：場所未定

3. 講演会 平成24年9月18日(火)~9月20日(木)

4. 交流会 平成24年9月18日(火)

5. 現地研修会 平成24年9月21日(金)

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成22年度までに56件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地で発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「①農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「②学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーに加わっていただける方は事前に登録をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年ごと更新）に記載して、緊急災害時等の場合に現地調査を行っていただきます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以下のとおりです。

- ① 調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。
- ② 派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。

- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03-3435-8494、E-mail : saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) よりダウンロードして下さい。多数のご登録をお待ちしております。

なお、登録いただいた個人情報、災害対応調査にのみ使用し、適切に取り扱います。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

行事企画委員会

技術者継続教育機構 CPD 運営委員会通信教育部会

行事企画委員会では、継続教育機構の個人登録者となっている学会員が、在宅のまま手軽に CPD 単位取得ができる方法として、平成 17 年 10 月号より学会誌上を通じて「CPD 通信教育」を実施しています。これまでの実績として、毎回多くの解答者が 2 CPD ポイントを取得しており、自己学習での年間最大 10 CPD ポイントとは別に、通信教育分として年間最大 24 CPD ポイントを取得するチャンスとなっています。まずご登録をいただき、是非、通信教育にご解答をお寄せ下さい。

1. 参加資格

参加資格条件としては、農業農村工学会の個人会員であり、かつ継続教育機構の CPD 個人登録者に限ります。学会へのご入会や CPD 個人登録をされていない方は農業農村工学会と継続教育機構のホームページから入会申込書、登録申込書をダウンロードし、それぞれ手続きを行って下さい。

2. 参加登録受付の時期と登録方法

参加登録の受付は随時行っています。登録方法は継続教育機構のホームページにある「通信教育参加申込書」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/moushikomipeji.html>) に必要事項を記入し、メール (kaito@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03-5777-2099) で送付して下さい。

3. 出題方法

出題は毎回、3 カ月前に発刊された学会誌の報文等の事実に基づいた内容から、択一式の問題を CPD 運営委員会通信教育部会が 10 問作成し、学会誌上に掲載します。

4. 解答方法と解答期限

解答の方法としては、継続教育機構のホームページにある「通信教育解答用紙」(<http://www.jsidre.or.jp/cpd/tushinkyouikukaitou/kaitoupeji.html>) をダウンロードし、正解と思う番号

および必要事項を記入して、メール (kaito@cpd.jsidre.or.jp) で送付して下さい。なお、解答期限が、8 月号掲載の第 71 回通信教育問題より「問題掲載号の翌月末日まで」となっております。期限を過ぎた解答の受付は一切できませんので、十分ご注意ください。

5. CPD ポイントの採点とポイント集計年度区分

採点の結果、7 割以上正解で 1.5 CPD ポイント、満点で 2 CPD ポイントの取得となり、前年度の 2 月号出題分から当該年度の 1 月号出題分までの 12 カ月分を、当該年度の通信教育での CPD 取得ポイント分として取得者個々の継続教育記録に自動登録いたします。採点後のポイント取得結果は（下記 7. で取得結果送付を希望する方以外は）毎年 8 月頃に送付する「CPD 取得一覧表」でお知らせします。それまでは出題の翌々月に学会誌上で公表する「解答」から、自己採点をお願いします。なお、解答は技術者倫理に則り、自らの責任で作成して下さい。

6. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

7. CPD 通信教育参加者の特典

毎年 4 月に、前年度分（2 月号～翌 1 月号分）の通信教育で取得した CPD 採点結果を算出します。採点結果の通知が必要な通信教育登録者は、事前に農業農村工学会継続教育部までご連絡下さい。また、農業農村工学会誌購読分と通信教育で取得したポイント分についての「CPD 取得証明書」（暫定版）を希望者に有料で発行いたします。

平成 25 年の表紙写真の募集

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成 25 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずです。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第 81 巻（平成 25 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合は JPEG ファインモードまたは TIFF モードに設定）撮影して下さい（サイズは六ツ切）。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 秋季～冬季 平成 24 年 3 月 31 日

春季 平成 24 年 6 月 30 日

夏季 平成 24 年 9 月 30 日

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 81 巻第 1 号で採用品と掲載号を発表し、採用品は平成 25 年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権

採用品の使用権は（社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ（フィルム、使用カメラ等）、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（社）農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 80 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
80 巻 1 号 農業農村工学分野における戦略的アウトリーチ活動 (仮)	公募終了
2 号 国内外における農地での塩類集積の事例と課題 (仮)	公募終了
3 号 これからの農業水利施設の維持管理運営のあり方について (仮)	公募終了
4 号 東日本大震災から 1 年 (仮)	公募なし
5 号 土壌保全による環境保全とその評価 (仮)	平成 24 年 1 月 16 日
6 号 大会関連	公募なし
7 号 東日本大震災関連	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

80 巻 5 号テーマ「土壌保全による環境保全とその評価」(仮)

人類の繁栄と衰退の間にあるのはわずか数十 cm の土壌であることは日頃、あまり意識されていません。デイビット・モントゴメリーは「土の文明史」(築地書館, 2010)で「土が文明の寿命を決定」していると述べています。また、土壌には生物種全体の 25% 以上が生息していると言われており、生物多様性と密接な関係があります。

日本では、水稻栽培という土地・水利用技術の中で自然環境と一体化した形で土壌保全と環境保全が行われてきました。しかし、田畑転換、転作が進み、1970 年には 340 万 ha あった田

ます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
(社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて
☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

は 2010 年には 250 万 ha となり、うち水稻作付面積は 160 万 ha 程度となっております。

本特集では、土地利用の変化が土壌および環境に与える影響に着目し、保全技術およびその評価手法に関する報文を募集します。耕起方法や排水方法などの工学的技術、富栄養化物質の移動などの化学的側面、生物多様性の保全という側面それぞれから報告いただき、土壌という自然資源を次の世代へ引き継ぐ方法について論じる機会としていただきたいと思います。

国際学会「国際水田・水環境工学会」への入会のお願いと
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっております。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、年 4 回無料で配布されます。

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年 4 回 (3, 6, 9, 12 月)

国際学会会費: 正会員 12,000 円 (農業農村工学会員に限る)

学生会員 (院生含む) 8,500 円 (農業農村工学会員に限る)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2011年12月に Vol.9, No.4 が発行されます。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価を得ております。

また、世界13カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。

投稿先：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局：Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL: +81-92-642-2909 FAX: +81-92-642-2914

E-mail: shinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

• **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru Mizoguchi (Japan)

Graduate School of Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

• **Editors** 13カ国から23名

• **Editing Board** 35名

• **Managing Editors**

Chief Management Editor : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Dept. of Bioenvironmental Systems, Engineering National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等：<http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

北海道支部講習会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- | | |
|---|---|
| 1. 期日 平成24年1月18日(水) | 10:40~11:40 「水利施設であるRC開水路の凍害診断のポイント」 鳥取大学農学部生物資源環境学科 |
| 2. 会場 北海道大学学術交流会館2階 講堂
(札幌市北区北8条西5丁目・北大正門すぐ) | 国際環境科学講座 緒方英彦 |
| 3. テーマおよびプログラム
「寒冷地における農業用水施設の長寿命化に向けて」 | 11:40~12:40 「積雪寒冷地における農業水利施設の維持管理」 土木研究所寒地土木研究所
水利基盤チーム 佐藤 智 |
| 9:30 開会 | |
| 9:40~10:40 「農業水利施設の長寿命化のための手引きについて」 農林水産省農村振興局整備部
設計課設計基準班設計基準第2係 大室智史 | 12:40 閉会 |
| | 4. 参加申込み
下記様式により、E-mail, FAX または郵送にてお申し込み下 |

さい。

参加申込締切は平成 24 年 1 月 6 日（金）です。

所属機関 _____
 同上所在地 _____
 申込代表者 _____ TEL _____

氏名	所属	備考

5. 問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内
 農業農村工学会北海道支部事務局
 担当：柏木淳一 E-mail : kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
 ☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

6. 参加費

会員：3,000 円 非会員：4,000 円

平成 23 年度京都支部講習会・研修会の開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 平成 24 年 2 月 16 日（木） 11：00～16：30
 （受付 10：00～）

2. 会 場 キャンパスプラザ京都
 JR 京都駅・近鉄京都駅（正面出口）下車、徒歩
 5 分

3. プログラム

①「農業水利施設の長寿命化のための手引き」について
 農林水産省農村振興局施工企画調整室課長補佐
 森井秀之

②東日本大震災における災害対応特別委員会の取り組み状況
 の報告
 （社）農業農村工学会災害対応特別委員会副委員長
 松本精一

③豊川用水施設の大規模地震対策
 （独）水資源機構豊川用水総合事業部第二調査設計課長
 村上喜昭

④ため池減災の取り組み（仮題）
 農林水産省農村振興局災害対策室課長補佐 石橋正之

4. 参加申込みと参加費振込先

(1) 参加費 会員：2,000 円 非会員：2,500 円
 (2) 参加申込み
 右記様式により、E-mail、FAX または郵送でお申し込み
 下さい。

参加申込締切は平成 24 年 2 月 10 日（金）です。

(3) 参加費振込み
 参加費は次の銀行口座に納入をお願いします。
 振込手数料については振込人負担をお願いします。
 振込元が分かるように所属・氏名は必ずご記入下さ

い。

振込後の参加費等の返金は原則応じられません。

(4)振込口座

銀行名：京都銀行
 店 番：102
 口座番号：3162005
 名義人：農業土木学会京都支部近畿事務局代表者那須隆
 夫
 （ノウギヨウドボクガツカイキヨウトシブキンキ
 ジムキヨク ダイヒヨウシヤ ナスタカオ）

5. 申込窓口・問合せ先

近畿農政局整備部設計課 吉村、茂木、橋本
 〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下ル
 ☎075-414-9513 FAX 075-417-2090
 E-mail : mitsuo_yoshimura@kinki.maff.go.jp

6. その他

最終版については第 3 報を 1 月号に掲載します。

【申込様式】

平成 23 年度京都支部講習会・研修会参加申込書

所属機関名： _____

所在地： _____

連絡者名（ふりがな）： _____

電話番号： _____

E-mail アドレス： _____

氏名	所属	CPD 番号	備考

第 50 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会
- テーマ 「大規模災害に対する農業基盤施設の安全性と今後の設計技術」
- 講 師 農林水産省・研究機関・大学・自治体・民間の研究者および技術者（予定）
- 期 日 平成 24 年 1 月 20 日（金）

- 会 場 新潟市・朱鷺メッセ
 〒950-0078 新潟市中央区万代島 6-1
<http://www.tokimesse.com>
- プログラム（案）
 10：00～10：10 開会式
 開会挨拶 材料施工研究部会部会長・新潟大学農学部教授

- 森井俊広
来賓挨拶 農林水産省
10:10~10:40 材料施工研究部会研究奨励賞授与式
10:50~15:00 講演発表
10:50~11:50 <基調講演>
大規模災害で被災した圃場の再生と農業基盤施設の役割
農村工学研究所 中 達雄
(昼食)
13:00~15:00 <一般講演>
(1) 大規模災害による農業基盤の被災とその復旧について (仮題) 農林水産省
(2) 津波災害と防災計画の今後の課題
新潟大学災害・復興科学研究所准教授 安田浩保
(3) 東日本大震災によるため池損傷の特徴と今後の対策
(株) NTC コンサルタンツ取締役東京支社長 松浦正一
(4) 農道に関する災害対策
鳥取大学農学部准教授 緒方英彦
(休憩)
15:15~16:00 パネルディスカッション
コーディネーター:
島根大学生物資源科学部教授 野中資博

- 16:00~ 閉会式
7. 参加費 4,000円
当日、受付にて徴収させていただきます。
8. 申込み
以下の項目をご記入の上、FAXもしくはE-mailにてお申し込み下さい。その際、タイトル欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。
①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④TEL, FAX, E-mail アドレス ⑤弁当 (代金¥1,000) 予約注文希望の有・無 ⑥CPD 個人登録者番号 (登録希望の方)
9. 申込先
〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050
新潟大学農学部気付 材料施工研究部会事務局
申込受付担当: 鈴木哲也
TEL&FAX 025-262-7395
E-mail: suzuki@agr.niigata-u.ac.jp
10. 申込締切 平成23年12月26日(月)
11. 宿泊 各自で手配して下さいますようお願いいたします。
12. 問合せ先 申込先と同じです。

平成23年度技術者継続教育機構東北地方委員会研修会開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村工学会技術者継続教育機構東北地方委員会では、農業農村整備関係技術者の技術力向上のため、東日本大震災の被災・復旧・復興計画について研修会を次の要領で実施します。

- 日時 平成24年1月25日(水) 13:00~17:00
- 会場 ホテル法華クラブ仙台
宮城県仙台市青葉区本町 2-11-30
(☎022-224-3121)
- 対象 農業農村整備に関心のある東北在住の土地改良事業関係技術者
- 主催 農業農村工学会技術者継続教育機構東北地方委員会
- 参加費 無料
- 募集人員 200名 (CPD 個人登録者優先)
- 研修内容
13:30 (13:00 開場) 開演
13:30~13:35 開会挨拶
13:35~14:25 講演①
「東北管内に於ける農業用施設等の被災と復旧状況について」

- 東北農政局整備部設計課長 石川善成
14:35~15:25 講演②
「宮城県に於ける震災復興基本計画について」
宮城県農林水産部農村振興課技術副参事 郷古雅春
15:40~16:30 講演③
「東北農政局の災害応急工事の実施状況について」
東北農政局整備部防災課課長補佐 田中 昭
16:30~16:35 閉会挨拶
8. 参加申込期限 平成24年1月13日(金)
9. 参加申込みおよび問合せ先
参加申込みは、所属先(名称、電話)、氏名、CPD番号、を記載の上、FAXまたはE-mailにてお申し込み下さい。
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 3-6-17
勾当台さのやビル 9階 北社会内
農業農村工学会技術者継続教育機構東北地方委員会
☎022-223-0346 FAX 022-268-1525
E-mail: hokutokai@eagle.ocn.ne.jp (担当: 畠山)